



15 滑川貞勝《七賢図花瓶》一点

明治三十三年（一九〇〇） 鉄／肉合彫
D 九・五、H 二三・五

鉄地の花瓶の周囲に竹林のなかに佇む七名の老人を浮き彫りしており、中国・西晋時代に世塵を避けて竹林に会し清談を事としたといわれる隠士、竹林の七賢を表している。笹の葉叢や幹、人物が重なり合う部分を、図様の周囲に深淺をつけながら彫り下げて薄肉盛り上げとし、わずかな高低差で見事に奥行きのある空間表現を完成させている。色金を使う色彩感のある作品ではないため地味な印象を受けるが、本来は鐺の地文様を表現するのに用いられた薄肉彫だけで一つの花瓶全体を装飾しており、彫金家としての滑川の技量の高さをうかがうことが出来る作品である。

滑川貞勝（一八四八〜一九〇四）は水戸に生まれ、十五才で萩谷勝平に師事し彫金を修め、滑川大庵に絵画を学んだ。明治時代になり東京へ出て、当初は同門の海野勝珉宅に寄宿したと伝えられている。のちに日本美術院彫金主任をつとめた。

本作は明治三十三年四月に開催された日本美術協会美術展覧会に出品され、三等賞銅牌を受賞した。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治の彫金―海野勝珉とその周辺

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 41

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年九月二十三日発行

© 2006, The Museum of the Imperial Collections